

目的 一定地域の女子の就労動向を考察するためには、個々の就労形態にある女子を短期的に分析するだけでなく、当該地域における女子総体としての就労動向を長期的に分析する必要がある。本研究は、地域社会の歴史的推移と、個々の女子のライフ・ステージの変化とを重視した分析の枠組により、上記課題の解明を目的とする。

方法 研究方法は事後的時点・数期間比較法による年齢コーホート分析法を用いた。対象は、就労形態の変化が顕著にあらわれることが予想される兼業農家の既婚女子（諏訪市湖南地区在住）90名とし、年齢は20代から70代とした。1980年8～10月訪問面接聴取調査を実施。

結果 ①全就労可能期間に占める家庭外就労期間の割合は若年コーホートほど高くなり、農業者就労期間の割合は〔40代〕を境に急減している。②就労形態に変化のおきたライフサイクル上の位置は、〔50代〕〔60代〕〔70代〕が“結婚時”、〔20代〕〔30代〕が“第1子出産時”であり、〔40代〕は“結婚時”“第1子出産時”“末子就学時”の三時点である。③各コーホートの就労内容の特徴的形態は、結婚前は〔50代〕を除き全コーホートが「雇業者型」、結婚後は〔60代〕〔70代〕が「農婦型」、〔20代〕〔30代〕が「雇業者型」、〔40代〕〔50代〕はそのどちらをも含む変動・移行期に相当する。④湖南地区における女子総体の就労形態の最大の変動期は1955年を起点に、諏訪地方の精密機械工業の発展と、農業の漸次的衰退という社会的・歴史的要因を背景として始まる。この変化が最も明白に認められるコーホートは1930年代生まれの〔40代〕である。